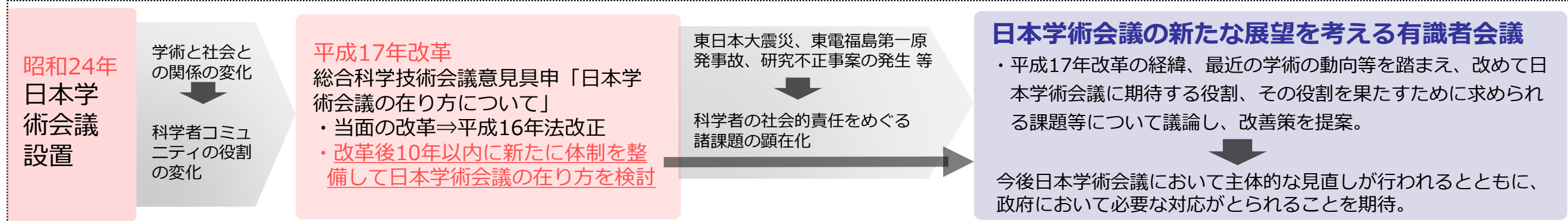


日本学術会議の今後の展望について（概要）

平成27年3月20日

日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議



日本学術会議 = わが国の科学者の内外に対する代表機関

（日本学術会議法第2条）

【組織としての存在意義、独自性】

- ・ 科学者の自律的な集団であること
- ・ 全ての学術分野の科学者を擁していること
- ・ 独立性が担保されていること

日本学術会議に期待される役割

- (1) 社会的な課題に対し我が国の学術の総合力を発揮した俯瞰的・学際的な見解を提示する「**社会の知の源泉**」としての役割
- (2) 学術をめぐる様々な論点、課題についての分野横断的な議論の場を提供し、学術界全体の取組をリードする「**学術界のファシリテーター**」としての役割
- (3) 学術と政府、産業界、国民等とのつながりの拠点となる「**社会と学術のコミュニケーションの結節点**」としての役割
- (4) 各国アカデミーや国際学術団体と連携し、地球規模の課題解決や世界の学術の進歩に積極的に貢献する「**世界の中のアカデミー**」としての役割

平成17年改革の成果と概括的評価

- 【活動面】**
- ・ 緊急課題や新たな課題への機動的対処等の改革の趣旨・目的は実現されてきており、活動面においては着実に成果が上がっている。
- 【組織面】**
- ・ 一部には改革で意図された成果が表れている。引き続き、改革の趣旨を尊重しつつ、運用面での工夫を重ねていくことを期待。

日本学術会議のさらなる活性化に向けて

= 日本学術会議が我が国のアカデミーとして求められる役割をさらに発揮するための改善策

1. 日本学術会議の活動の在り方

- (1) 政府や社会に対する提言機能の強化
 - ① 意見集約と決定のプロセス ⇒ テーマに応じたプロセスの選択、プロセスの明確化・透明化
 - ② 事後の検証 ⇒ 改革後の各種取組の推進、外部評価制度の効果的・積極的活用
 - ③ 緊急課題への対応 ⇒ 緊急時の役割等の会員等への周知、平常時からの議論や関係機関等との意思疎通
- (2) 科学者コミュニティ内のネットワークの強化と活用
 - ① 学協会との連携 ⇒ 協働による活動の呼びかけ等を通じたより横断的・恒常的な関係構築
 - ② 地域の科学者との連携 ⇒ 会員等選出に当たっての地区バランス考慮、地区間の情報共有の場の設定
 - ③ 若手科学者の活動の促進 ⇒ 「若手アカデミー」の活動を通じた活動促進、実態の恒常的把握の仕組み検討
- (3) 科学者コミュニティ外との連携・コミュニケーションの強化
 - ① 広報・社会とのコミュニケーション活動 ⇒ メディアとの意見交換、広報の戦略化等
 - ② 政府との関係 ⇒ 提言と政策推進の有機的連携、立場の明確化、課題分析力強化のための専門スタッフ増強
 - ③ 産業界との関係 ⇒ 組織的・定期的な意見交換、産業界と若手科学者をつなぐ企画
- (4) 世界のアカデミーとしての役割強化
 - ① 国際学術活動への参画 ⇒ 全体像を描いた戦略的活動、事務局の体制強化
 - ② 世界に向けた発信 ⇒ 必要性の高い国際会議への柔軟な予算措置、多言語による情報発信に向けた体制整備

2. 日本学術会議の組織としての在り方

- (1) 会員・連携会員の在り方
 - ① 意識、活動へのコミット ⇒ 社会的使命等の明確化・浸透、自発性を尊重した運用等
 - ② 求められる人材と選出方法 ⇒ 現会員等への働きかけ、求める人材像や選出プロセスのオープン化等
 - ③ 会員・連携会員の構成 ⇒ 産業界在籍者、若手科学者、地区バランスの配慮
- (2) 組織としての継続性と発展性 ⇒ 新たな知を取り入れるための新陳代謝と一定の継続性のバランス
- (3) 組織形態 ⇒ 求められる役割から国の「特別の機関」が相応しい、所在地は現在地より適した場所は見出せず
- (4) 予算・事務局体制 ⇒ 広報、国際等に係る事務局体制の強化、求められる役割を着実に果たすための予算の充実